

環境問題に関心を持ったことがきっかけで石けん作りを始めたのは今から約20年前。ちょうどその頃受講したアニマルアロマセラピーの講座で里見千佳先生と顔見知りになるご縁があり、犬の石けんを作ってらっしゃることや犬も手作り石けんで洗った方が良いことをお聞きして「へえ～！犬も石けんなのね～！」と興味深く思ったのですが、当時は2匹の猫と暮らしていたので犬の石けんは縁遠い他人事と捉えていました。ところがその数年後、家族に迎え入れた犬がアレルギー体質で動物病院を頻繁に受診するようになり、自然の力で抗アレルギー薬を減らしたら…なにか良いものはないだろうかと考え、犬の石けんを思い出して「そうだ！石けんだ！！」と里見先生の著書を慌てて購入し、犬用石けんを作ったことが私と犬の石けんの原点です。もちろん石けんでシャブーすることで愛犬のアレルギーが治ったわけではありませんが、皮膚の状態が安定して動物病院に行く回

数は確実に減りました。「犬は皮膚が弱い生き物ということを知って欲しい！」「石油系の合成シャンプーはこんなに怖いんだよ！」など、犬の石けん運動家のように躍起になって声を上げていた時期もありましたが近年はネットの普及のおかげで犬の石けんに興味を持ったワンちゃんの飼い主さんからのアプローチの方が増えて来て、お役に立てることがあれば「はいよろこんで」的な受け身のスタンスでゆるりとした犬の石けん啓発活動となりました。私の力不足で深く勉強してくださる方が増えないのが残念なところですが、私が生きている間にワンちゃんの飼い主さんたちが当たり前前に犬の石けんでシャンプーする時代が来ると良いなと願いながら、今日も散歩帰りの愛犬の肉球を石けんで洗い、トリミングサロンでは私のお手製愛犬専用石けんでシャブーしてもらい、我が家のワンたちの年齢の変化と体質に合わせた石けんを作り続けて行こうと思っています。

とっておきレシピ：化石さんごと島豚の琉球石けん

<レシピ>

ヒマワリ油	110g
島豚ラード	60g
ココナッツ油	60g
ツバキ油	30g
スイートアーモンド油	20g
ツバキバター	10g

精製水	90g
苛性ソーダ	40g

乳酸ナトリウム	3g
---------	----

化石さんごパウダー	1g
麻炭パウダー	小1/4

<精油>

オレンジスイート	20滴
フランキンセンス	10滴
ヘリクリサム	10滴

<作り方>

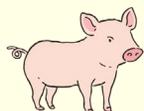
- ①容器に各オイルと精油を入れ約45℃に温め、最後に乳酸ナトリウムを入れる。
- ②苛性ソーダ水溶液を約45℃に冷ます。
- ③①に②を合わせブレンダーで攪拌していく。
- ④トレースが出たら1/5を紙コップに取り麻炭パウダーを混ぜる。
- ⑤残りの素地に珊瑚パウダーを入れブレンダーで軽く攪拌する。
- ⑥⑤に④を注ぎ入れへらなどで極々軽く混ぜる。
- ⑦⑥を型に注ぎ入れ24時間保温する。
- ⑧1週間後に型から出し、1か月ほど乾燥させる。



↑シリコンカップケーキ型 (DAISO) 200円商品

「海から豚がやってきた」お話

終戦直後の沖縄は戦火により荒廃し食糧難でした。ハワイに住む沖縄系移民の人たちが故郷への強い思いで(彼ら自身も日系人として差別されて負しい生活だったのにも関わらず)必死に集めたお金で購入した種豚約550頭を船で輸送しました。おかげでその豚たちは食糧になり、糞尿は肥料となって畑に恵みをもたらした。島豚とよばれる沖縄の豚は「海からやって来た550頭の豚たち」の子孫です。



化石さんご

さんご以外の不純物が少なく高純度。汚れや匂いの吸着効果があります。



麻炭パウダー

珊瑚と同じく汚れや臭いを吸着する効果があります。

墨の色の黒(くろ)を苦勞(くろう)とかけ、苦勞を水に流し、幸せを呼び込む縁起物とされるマーブリング(墨流し)デザインで作成しました。

レシピについて: アトピーやイボ等、皮膚トラブルが多く、近年は腫瘍除去手術を毎年している我が家の愛犬向けの石けんレシピです。皮脂や汚れや臭いを吸着除去作用を持つさんごと麻炭をオプションに使い、フランキンセンス精油の皮膚腫瘍やシニア犬の心のケア作用。永遠・不死の呼称があり、抗アレルギー、抗炎症、消毒作用のあるイモータル精油。ワンコも人もリラックスしてシャンプーできるようなオレンジスイート精油で香りづけしました。乳酸ナトリウムは糖の発酵により生じる乳酸を中和して得られる天然化合物で程よい固さに仕上がる、保湿、pHの安定、泡質の良さ、起泡力と泡の持続を目的に使用しています。

